

ふくいの子どもたちと先生のための

GGKニュースNEXT

NEWS LETTER
vol. 04 2026
福井県教職員課
2026.11.16

協働で進める働き方改革

中学校定期試験の共通化

他校との協働は、新たな気付きや業務改善のきっかけになります。
今回は、複数の学校が連携して取り組む「定期試験の共通化」を紹介します。



複数校で作る定期試験

複数の学校で試験日や試験範囲をそろえ、協働で作問を行う取組が進められています。共通問題による定期試験を実施することで、事前に教えるべきポイントを共有できるだけでなく、教員同士が授業や評価について意見交換を行う機会にもなります。
また、協働で作問することで、一人で問題を作成したときには気づけなかった癖を知ることができ、問題の質の向上にもつながります。さらに、作問業務を分担することで負担軽減を図ることもできます。
近年は、オンライン会議やクラウド上での共同編集により、学校間で効率的に作業できる環境も整ってきています。こうした協働の取組は、定期試験づくりだけでなく、教職員同士が学び合い、学校改善につなげる機会にもなっています。

Point!!

- ✅ 問題の質の向上
- ✅ 教員同士の学び合い
- ✅ 作問負担の軽減
- ✅ 学校間の連携強化





協働のアイディア

- ✅ 単元テストや教材の共同作成
- ✅ 授業実践やICT活用事例の共有
- ✅ ICT教材の共同作成
- ✅ 研修資料や校務文書の共同編集
- ✅ 学校間での情報交換や学び合い

COLUMN

協働が生み出す新たな価値

学校には、知恵や経験を持ち寄ることで、よりよい成果につながる取組が数多くあります。定期試験の作成もその一つです。知恵や経験を持ち寄ることで新たな視点が生まれ、業務改善につながります。協働の輪を広げることが、学校や教職員の成長にもつながっていくのではないでしょうか。

